

2013年3月期第1四半期決算IR説明会ネットカンファレンス(2012/8/2開催)
質疑応答内容

Q:全体の業績について伺いたい。足元でのマクロ環境の悪化や1Qの実績を踏まえると、今期の計画達成のハードルが上がったように見えるが如何か。

A:今期の収益見通しにおいて、元々1Qは経常利益段階まで低進捗を前提としていた。一方、当期純利益は投資有価証券の評価損▲32億円が当初の見込みには入っておらず、予想よりも下回っている。ただ、この評価損については、期末までに株価が回復すれば戻ってくると考えている。しかし、ユーロ圏の財政危機、中国経済の減速については危機感を持っており楽観視はしていない。現段階で見通し達成のハードルは高くなったと思うが、通期の見通し達成に向けてやっていく。

Q:ブラジルのバイオエタノール事業の足元の状況を教えてほしい。足元の状況を踏まえると、来期以降の収益改善度合いが少々落ちてきているという見方をした方が良いのか。

A:昨年度からの天候不順によりサトウキビの収穫量が予想以上に減速している。今後も作物の出来高、或いは収穫量等を注意深く見守っていかなければいけない。来期以降、天候不順等がなく収穫量が予想通りであれば、業績回復は心配無い。

Q:ブラジルのバイオエタノール事業について、足元の状況は良い方向に向かっているのか、それとも悪い状態は変わらないのか。

A:今期の業績改善についてだが、収穫期に非常に雨が多く、サトウキビを計画通りに収穫できなかった。これについては、天候が回復し農作業ができるようになれば挽回は可能と思う。しかし、昨年度から雨が少なすぎたということで、出来高そのものが若干期待よりも少なく、今後、収穫の状況等を精査していく必要があるとみている。

Q:現行の中期経営計画で、資産の入れ替えを目的に今期特別損益ネット▲100億円、来期▲50億円を見込んでいたが、この進捗を教えてほしい。この特別損失とは別に、1Q決算で投資有価証券等評価損▲32億円を計上している。従い、今期の特別損失は▲100億円ではなく、▲132億円になるということか。

A:投資有価証券等評価損は、計画に入っておらず予想外であった。一方、資産の入れ替えとして、特別損益ネット▲100億円を計画しているが、1Qで大きな進捗はない。2Q以降、資産の入れ替えに伴い、▲100億円の特別損益が出てくる予定。また、保有株式の評価損については、1Qで▲32億円の損失を計上したということに留めておきたい。

Q:機械部門の業績進捗が低い理由について教えてほしい。

A:機械部門の自動車事業は、ベネズエラ、ロシア、タイ、フィリピン、加えてプエルトリコで事業展開している。1Qの売上は期待通りだが、ユーロ圏の財政危機で、欧州系自動車メーカーのロシア市場へ

の販売攻勢が強くなってきており、当社のロシアでの業績に陰りが出てくることを懸念している。一方タイ、フィリピン、プエルトリコは業績好調。また、ベネズエラの1Qの生産販売は見込み通りだが、10月の大統領選挙に向かい政変を注意深く見守らなければならないとみている。インフラPJ・産機は、1Qでの進捗は低調であるが、下期にプラント関連での収益計上を予定している。船舶・宇宙航空はほぼ見通し通り。産業情報は、当社子会社の日商エレクトロニクスが下期偏重の商売形態のため、1Qの業績は低調。個々の事業で業績進捗が低いものがあり、特にロシアの自動車事業の低進捗を注視している。

Q:1QのネットDERが2.3倍に増加している。今期のネットDERの計画は2.1倍だが、下期以降で達成できるのか。

A:ネットDERは、円高による為替換算調整勘定の減少と、株価下落によるその他有価証券評価差額金の減少が資本勘定に影響したもので、世界景気を見ると引き続き環境は厳しいが、期間収益の積み増しにより、ネットDERはこの中期経営計画最終年度に2倍程度に持っていく努力をしていく。

Q:エネルギー・金属の進捗率が低いが、石炭事業の足元の状況を教えてほしい。市況が下落傾向にあるが、今期見通しをどのように見るべきか。

A:石炭事業の1Q実績は見通しに対し約2割の進捗となっている。石炭価格の下落に伴い、今期見通しをやや下振れする可能性があり、業績についてはやや保守的に見ないといけないだろう。

Q:短期有利子負債が増えているが、これは意図的なものか。また、営業CFが赤字になっているが、有利子負債を今後増やさないといけない状況になるのではないか。

A:今期、250億円の社債発行を予定しており、先月末に3年債を100億円発行し、今後更に150億円の社債発行を予定している。従い、期末にかけて長期調達比率は70%まで回復すると見ている。また、営業CFのマイナスについては、煙草、肥料関係の在庫増加が大きく影響しているため、煙草、肥料は1Qに続き2Q以降も堅調に推移するとみており、営業CFのマイナスは早晩回復すると見ている。

Q:化学品の物流が鈍くなってきている傾向があるようだが、欧州財政危機に絡んで中国経済の減速が他のトレードビジネスにどの様に影響しているか、教えてほしい。

A: 化学部門で大きく影響があるのは合成樹脂関係。そのほか、中国では、建設関係で建設機械の生産が大きく下振れしてきているが、当社の機械部門では中国で大きな事業展開をしていないため、現段階で大きな影響はないと考えている。

以上